

校舎が明るくきれいになりました

「めっちゃキレイ！」

「ホテルのトイレみたい！」

「床が白くなった！すべりにくくなった！」

8月19日、夏休み明け初日、子どもたちの第一声でした。

この夏休みを利用した校舎の改修工事が無事終了しました。教室の天井も新しくなり、証明はLEDになりました。トイレの洗面台は押しボタン式で両手が使えるようになり、鏡は大きく、ホテルのようになりました。

校舎中央の吹き抜け天井も刷新され、より多くの自然光が入り、校舎全体が明るくなりました。

リセオは創立から42年が過ぎ、「令和」という新しい時代とともに新しく生まれ変わりました。全校朝会で、「明るくきれいになった校舎を大切に使いましょう」「きれいな教室で学習できることに感謝して、一生懸命勉強しましょう」と話をしました。

新たに6名の転入生を迎え、リセオに子どもたちの元気な歓声や笑顔が戻ってきました。子どもたちは、日焼けしたり、身長もグンと伸びたり、様々な経験を通してたくましく成長していました。私たち教職員も、新しくきれいな校舎で仕事ができることに感謝し、日々子どもたちとともに教育活動に頑張っています。



リセオのマスコット『大輝くん』

『カサ・ダヤ』に生まれた友情

母子支援施設『カサ・ダヤ』を8月24日(土)に訪問しました。『カサ・ダヤ』とは恵まれない環境にある少女や、彼女たちの生んだ幼い子を保護しながら、家庭の温かさを提供して自立を支援する施設です。1997年にお子さんをリセオのメキシココースに通わせたことがある方が創設しました。近年は資金不足のため、十分な運用が出来ない状況にあります。

『カサ・ダヤ』訪問の目的は、メキシコ社会に暮らしている私たちが少しでもメキシコ社会に寄与していこうという意識を高めるために行っているもので、中学生からボランティアを募って毎年行っています。当日は、保護者の皆様から集めた生活用品などの支援物資をお渡しした後に、28名の生徒たちが3班に分かれ、施設の少女たち16名とともに、タピオカづくり・だるまんがころんだ・ソフトバレーボールなどをして一緒に楽しみました。また参加した教員が施設の草刈りなどもしました。たった半日の活動でしたが、笑いや歓声が絶えず、心からの交流ができました。

帰りには、施設の代表の少女から「来てくれてありがとう」「来年もまた来てほしい」「楽しかった」という感想をいただきました。その後、名残を惜しみながらハイタッチをして施設を後にしました。帰りのバスの中ではみんな思ったよりずっと元気でした。きっと、わずかでもメキシコ社会に寄与できたことで得た充実感に満たされていたのではないかと思います。8月24日、本当にいい1日になりました。